

アカヤマアリ

Formica sanguinea Latreille
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の山地で記録があり、本県が日本海側の分布の南限にあたる。既知産地の多くは生息環境の大幅な改変をさほど受けない地域にあるが、一部では大幅改変のおそれもあり、20年以上記録がないことも考慮して絶滅のおそれが高まっていると判断した。

種の特徴

体長6～7mm。頭部は赤褐色ないし黒色。胸部、腹柄節、脚等は赤色。腹部は黒色。頭楯前縁中央はくぼむ。山地の草地等明るい環境に生息。単独で土の中に営巣することがあるが、多くはクロヤマアリ、ヤマクロヤマアリ等を奴隷狩りして混生する。

分 布

北海道、本州。本県が日本海側の分布の南限。県内では勝山市取立山、大野市赤兎山、大長山、鳩ヶ湯等奥越地方の山地で記録があるが、今回の調査では確認できていない。

生息を脅かす要因

本種の生息域は、異種のアリ類が数多く生息しており、生存競争の厳しいところである。わずかな環境の変化でも本種の活動状況に大きな影響を及ぼしうる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）、寺山・久保田（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

エゾアカヤマアリ

Formica yessensis Wheeler
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

既知産地の多くは生息環境の大幅な改変を受けにくい地域にあるが、一部では大幅改変の可能性もあり、20年以上記録がないことも考慮して絶滅のおそれが高まっていると判断した。全国的にみても、本州ではかつて多産した場所でコロニー数の減少や消滅が相次いでいる。

種の特徴

体長4.5～7mm。頭部、胸部、腹柄節・脚は黄赤褐色で、頭部・胸部・脚の一部はやや暗色。腹部は黒色で、基部は赤みがかかるとされる。森林に隣接した草原に生息し、本州では標高1000m以上の山地に生息地が限られる。枯草や針葉樹の落ち葉で1mほどの塚を作る。

分 布

北海道、本州に分布。県内では大野市と勝山市の山地・山間部に生息が限られる。県内ではアカヤマアリより生息範囲は広いとされるが、今回の調査では確認できていない。

生息を脅かす要因

道路工事等で路面の拡幅、舗装、法面の掘削や法面のモルタル吹付工事等が行われていることにより生息が脅かされている。地球温暖化が本種の衰退の重大な要因になっている可能性も指摘されている。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、日本産アリ類データベースグループ（2003）、寺山・久保田（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ケブカツヤオオアリ

Camponotus nipponensis Santschi
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内ではもともと広く生息が確認されていたが、各地で河川の改修工事が実施されており、河川敷を主な生息環境とする本種の生存基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長4～5mm。体色は黒～黒褐色。頭楯前縁の中央部は凹む。胸部背面に20本以上のむち状の長い立毛を持つ。丘陵地～低山地に生息し、県内では山麓、河岸、湿地等の枯木での営巣が確認されている。

分 布

本州の東北地方～中部地方にかけて生息。県内では大野市、勝山市、福井市、旧今庄町、敦賀市、旧三方町、高浜町の山地、湿地、河岸等で採集記録がある。

生息を脅かす要因

河川の改修工事や山麓の道路建設・改修工事が本種の存続に大きな影響を与える。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○		○							○	○	○